

地歴公民 (日史・世史・地理・政経・倫理) 北海道大学 総合入試【文系】，学部入試【文】

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述・論述併用。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

例年通り大問は3題であるが、解答個数は昨年の40から44に増加した。そのうち、記述問題の解答個数は28で、昨年の25に比べて増加した。大半はオーソドックスな問題であるが、難問もみられた。一方、論述問題の総数は16で、昨年と比べて1題増加した。また、解答欄の行数からみれば、昨年の計33行から計31行への微減であった。例年通り、すべて字数不定の問題で、1行～3行で答えさせる形式である(1行の字数の目安は30～35字)。設問数はやや増加したが、論述の総行数がやや減ったので、分量は変化なしとした。

大部分は例年通り、教科書をしっかりと読みこんでいれば解答できるが、一部には深い理解を必要とする問題、設問を正しく理解しなければならない問題がみられた。以上の諸点をふまえ、難易度は変化なしとした。

出題の特徴や昨年との変更点

記述・論述ともに西洋史と東洋史の両方から、時代的には古代から近代にかけて、分野的にも政治・経済・文化から広く出されることが出題の特徴といえるが、今年度は時代や地域にやや偏りがみられた。昨年との変更点として、4行の論述問題が出題され、また空欄補充が3つの大問すべてで出題された。昨年出題された図版がなかった一方、史料を使った問題が出題された。

その他トピックス

中国史からの出題が極端に少なかった。戦間期以降の出題もみられなかった。

2025年実施の北大オープンでは、本試大問2問3と同様の出題をした。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述・論述・空欄補充	古代・中世のユダヤ人	問5は史料を使った問題だったが、史料を読みこまなくても設問文を手がかりにして解ける問題であった。問6は征服地の支配体制に関する記述が難問であった。	標準
2	記述・論述・空欄補充	オスマン朝の拡大	問4はボスフォラス・ダーダネルス両海峡に関する教科書の記述は少なく、難問であった。問5も難問。アルメニア商人ではなく、キリスト教徒やユダヤ教徒でも可。ブルサなどほかの経由地を指摘しても可。問7の海に関しては難しく、インド洋への勢力圏拡大が書けていれば十分である。	難

3	記述・論述・空欄補充	感染症の流行と拡大	問2は下線部ですでに「荘園制の動揺」とあるので、「影響」で何を質問しているのか悩んだ受験生もいるだろう。問3では、大問1につづいて再びユダヤ人に関する問題が出題された。この時期のユダヤ人のおかれた状況については、一部の『世界史探究』にしか詳しい記述はなく、それ以外の教科書で学習していた場合には難しかったであろう。問4は、設問文から当時の「商品作物」と解釈できるので、解答例のようにしたが、(ア)は小麦、(イ)はジャガイモやトウモロコシなどをあげても加点される可能性がある。問6は世界史探究としては難しいが、歴史総合をしっかりと学習していれば解けたであろう。	やや難
---	------------	-----------	---	-----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 論述対策：ふだんから 30 字～120 字程度の論述問題をくりかえし練習しておくこと。例年、文化史の分野から思想や宗教関連の出題がみられるので注意すること。ある歴史的事実の背景、経過、結果、影響、意義など因果関係を説明させる問題が出題されるので、そのようなタイプの問題に慣れておくこと。基本的な用語や概念を説明させる問題も出題されるので、しっかり対策しておくこと。 ・ 地域対策：イスラーム史、アフリカ史、南北アメリカ史からの出題も多いので、苦手にせず、よく対策しておくこと。今年は例外的に極端に少なかったが、中国史は例年出題されるので、対策を怠らないようにすること。 ・ その他：漢字で覚えていない用語があれば、正確に書けるようになるまで練習すること。第二次世界大戦以後の戦後史についても、重要テーマを中心に基礎的事項を整理して記憶しておくこと。
--